

乾燥設備を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
1999	10	0 ～ 1	乾燥炉の天井部分に設置されているバーナーの調子が悪くなったので、調整のため乾燥炉に常設されている梯子を登ってバーナーの点火部分まで行こうとしたときにバランスを崩して床面まで墜落した。	11209	1	1～9
2001	8	19 ～ 20	機械鉄構工場内で、米ぬか乾燥機の試運転を行っていたところ、本体部分である二重構造の円筒ドラム胴内に封入された耐火モルタルが加熱されたことにより内部が膨張し、円筒ドラム胴が破裂し破片が激突した。	11301	14	10～ 29
2003	6	16 ～ 17	工場2階において、熱風式循環乾燥炉で塗装された製品（スチール製棚板）を自動乾燥しているときに、突然、乾燥設備が爆発し1名が死亡した。	11209	14	10～ 29
2003	6	16 ～ 17	工場2階において、熱風式循環乾燥炉で塗装された製品（スチール製棚板）を自動乾燥しているときに、突然、乾燥設備が爆発し1名が死亡した。	11209	14	10～ 29
2004	7	8 ～ 9	麦の乾燥工場内において、設備上を移動していた際に、足を滑らせて、約9m下の床面に墜落した。	170209	1	50～ 99
2004	11	18 ～ 19	おしぼりのクリーニング後の乾燥機（内径1.25m、長さ2m）において、付近の作業者が異音に気づき、上司に報告後、見に行ったところ内部にいる被災者を発見した。	11703	7	100 ～ 299
2005	8	4 ～	不織布綿の製造工程で、乾燥機出口付近より出火後、不織布綿を載せたコンベヤーに沿って火が広がり、不織布綿を巻き取るワインだ一部	10209	11	10～ 29

		5	分に延焼した際に被災者の着衣に引火した。			
2005	8	23 ～ 24	廃材を乾燥させる円柱状のドライヤ内部のドラムのメンテナンス作業中、点検口付近で回転を始めた機械に巻き込まれた。	10804	7	10～ 29
2008	8	12 ～ 13	アルミダイカストの切削加工時に発生する切粉を再利用するため、切粉に付着した切削油等を乾燥設備で加熱乾燥させる作業で、循環排ガスシステムのダクトに取り付けられているサイクロンのダスト排出ダンパで異常が発生したことから、ダスト排出口正面でダンパ動作ボタンを操作して異常処理の作業を行っていたところ、突然ダスト排出口から火炎が吹き出し、操作していた被災者が火炎を浴びて死亡した。	11502	11	1000 ～ 9999
2008	4	13 ～ 14	クリーニング工場内に設置された乾燥機（ドラム直径約1.8m、幅約1.2m）内部に付着したマグネットを取り除く作業を行っていたところ、乾燥機が起動し回転したため、乾燥機内部で全身を強く打ちつけ死亡した。	11703	6	10～ 29
2012	4	7 ～ 8	被災者はクリーニング作業中、何かの原因で乾燥機後部のふたに首を挟まれ死亡した。	11703	7	10～ 29
2016	1	16 ～ 17	洗濯乾燥機のドラムの中で作業を行っている時、起動スイッチが入り、回転するドラムに巻き込まれて死亡した。	11703	90	100 ～ 299
2019	10	6 ～ 8	クリーニング工場において、工場2階に設置してある乾燥機の扉付近にいた被災者が、その後、何らかの原因で乾燥機内に閉じ込められ、死亡しているのが発見されたもの。	11703	7	50～ 99

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_05.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_05.html)

